

# 過搾乳に注意して乳房炎を防ごう！

乳房炎は、治療費の増加や生乳生産量の減少などの大きな経済損失を招く病気です。

乳房炎の原因の一つに「過搾乳」があります。生乳が出ていないのにミルカーが装着されていると、過搾乳になり乳頭口を傷つけ、乳房炎に感染しやすくなってしまいます。

過搾乳の原因を再確認し、乳頭口を傷つけない搾乳を行いましょう。



傷ついた乳頭口。  
「過搾乳」が  
原因です！

## 過搾乳はいつ起こる？

図は、ラクトコーダーという装置で搾乳中の乳量の動きを調べたものです。

過搾乳は、「搾乳開始直後」や「搾乳終了間際」に起こる危険性があります。

過搾乳が起こっているときの乳量の特徴的な動きを見てみましょう。

### 1 「搾乳開始直後」の過搾乳

図1のグラフでは、ミルカー装着直後に乳量が落ちていきます。

搾乳刺激が不十分だったり、乳頭刺激から装着までの時間が短いと、オキシトシンが出ないうちに装着してしまうことになります。このとき、乳量が一度落ち、オキシトシンの作用で再度乳量が増える「二度出し現象」が発生します。二度出しの間は生乳が出ておらず、空搾りにより乳頭口が傷つき、過搾乳になります。

**原因：搾乳刺激不足**  
**：早すぎるミルカー装着**

### 2 「搾乳終了間際」の過搾乳

図2のグラフは、搾乳後半で乳量が少ない状態で搾乳されています。

生乳がほとんど出ていないのにミルカーが離脱されず、搾乳が続くことで、空搾りが起こり、過搾乳になります。

**原因：ミルカー離脱の遅れ**

流速(kg/分)

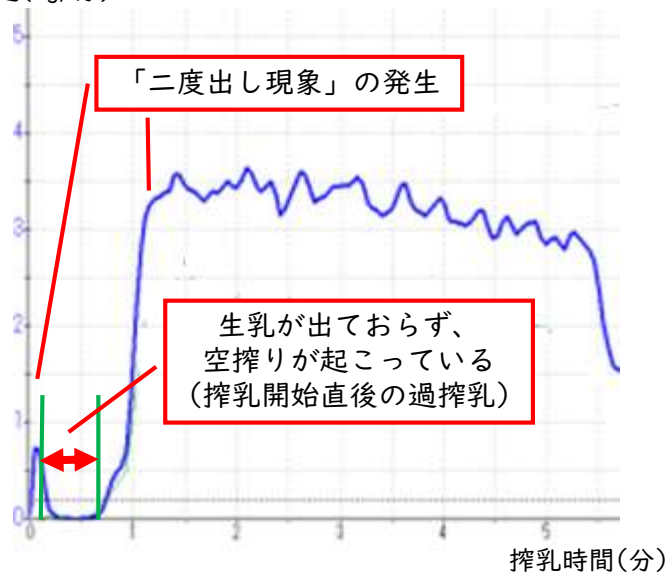


図1 搾乳開始直後の過搾乳

流速(kg/分)

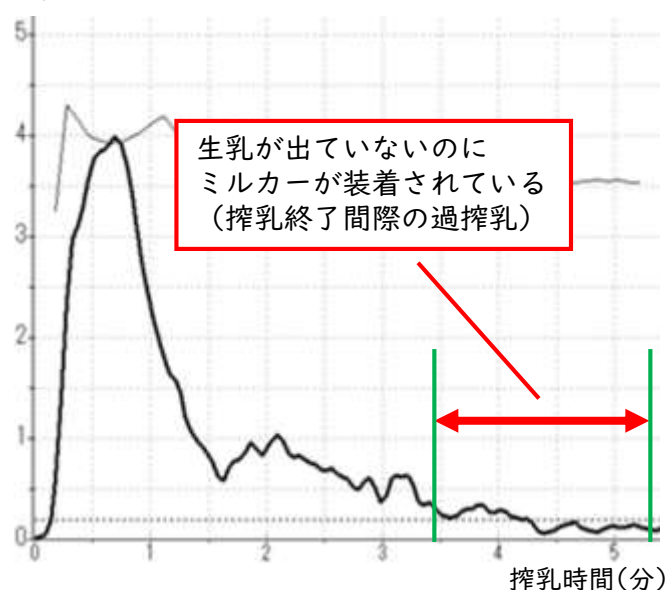


図2 搾乳終了間際の過搾乳

# 過搾乳の対策方法

過搾乳の防止対策を行うことで、搾乳時間は適正になり、乳頭口は傷つかず、乳房炎は少なくなります。対策方法は以下のとおりです。

## 1 搾乳開始直後の過搾乳防止対策

- ・前搾りを十分に行い、搾乳刺激を十分に与える  
(目安：5回以上)
- ・乳頭が膨らんだ状態でミルクカーを装着する  
(目安：搾乳刺激から1分～1分半)

## 2 搾乳終了間際の過搾乳防止対策

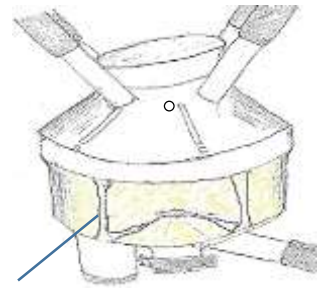
1) 搾乳終了のタイミングは、

- ・ブリードホール※からの空気の流入音が止んだ時
- ・クローに入る生乳が一筋の糸になるくらい

※搾乳中に空気を吸い込み、生乳をクローからミルクラインに上げる役割を持つ部分

2) 自動離脱の場合は

- ・設定した流量で、適切に作動しているか確認



離脱タイミング  
(クローに入る生乳が一筋の糸になった時)

# 過搾乳対策の実践

図3は、過搾乳の対策を行ったときの乳量の動きです。

以下のような効果が発揮されています。

- ①十分な搾乳刺激と適正タイミングのミルクカー装着で乳量が落ち込まない
- ②ピーク乳量が大きくなる
- ③素早く搾乳が終わる  
(ミルクカー離脱が適正)

流速(kg/分)

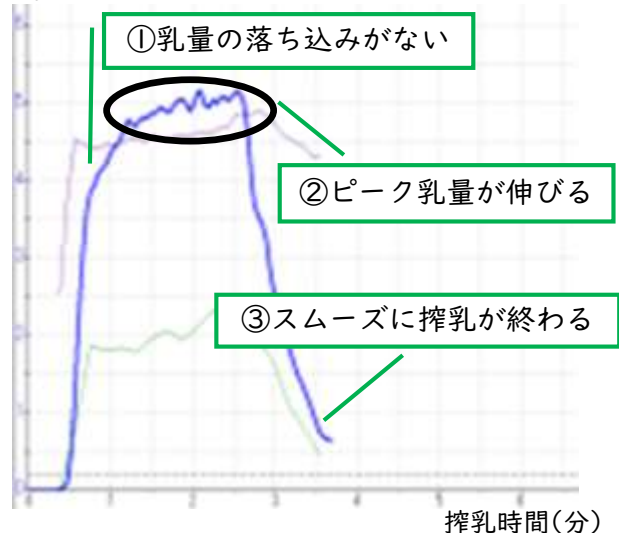


図3 牛の生理に合った搾乳の時の乳量

過搾乳防止対策を行い、乳頭口が傷つかない搾乳をして、乳房炎を防ぎましょう！